

OASIS4 読解のためのヒント

Lesson2 「完了形」 Reading (本冊子 pp.8-9、Interactive Note p.6)

※ 下記の番号①～⑫、⑭～⑳は、日本語空所補充プリントの文番号に対応しています。

①

spend : ～を過ごす outskirts : 郊外

※ , who…→ 「コンマ+関係代名詞」は関係代名詞の非制限用法(または継続用法)と呼ばれるものです。継続用法と呼ばれるぐらいなので、この用法は、関係代名詞(ここでは who)によって、2つの文をつなぐ(=文を継続させていますね)用法です。そう理解してください。そうすれば、2つの文を訳そうという態度で臨めるはずです。そして、「文」とは、必ず、主語(S)+動詞(V)の構造がありますので、ちゃんとそれをキャッチしてくださいね。

2つの文とは？

<1> Jennifer was spending the night with her old friend Karen

と

<2> , who lived in a very old house on the outskirts of the city.

ですね。え？<2>が文章？「,」(コンマ)から始まってると、who って誰？となりますよね。ここではとりあえず、「,」を and みたいに考えて「そして」と訳し、さらにその後ろを訳してみましよう。つまり

who lived in a very old house on the outskirts of the city

の部分ですが。

文章だと考えて、主語は？動詞は？

動詞は lived ですね。では自然に考えて主語は who でしょうね。でも、who って誰？と。

「コンマ+関係代名詞」が出てきたら、関係代名詞(ここでは who。代名詞だから、何かの名詞の代わりをしているわけですよね?)は、コンマの前にある(ほとんどの場合直前です)名詞を指している(つまり、その名詞の代わりをしているということです。)のです。では、もうその名詞が何かわかりましたね？じゃあ、lived、つまり「住んでいた」のは誰かがわかりますね。訳の空所を補充してみてください。

②

after~ : ~後

evening : 宵、夕方、晩 full of~ : ~で一杯 (つまり、「大いに~した」のように解釈)

laughter : 笑い felt : feel (感じる) の過去形

※after+名詞 (のかたまり) をしっかりつかむ。何の後なのか？

※an evening full of~→full of~の部分が、evening を後ろから修飾。どんな「宵」なのか、しっかりつかむ。

③

bright : 明るい moonlit : 月明かりの look out of the window : 窓から外を見る

just before ~ : ~する直前 get into ~ : ~に入る

※just before 主語(S)+動詞(V)の構造に注意。しっかり、before の後に主語と動詞を読み取って。「誰が(S)」「どうした(V)」のか、しっかりつかむ

④

as~ : ~時 strike : ~を打つ midnight : 真夜中 heard : hear (~を聞く) の過去形

sound : 音 horse : 馬 hooves : hoof (ひづめ) の複数形 carriage : 馬車 wheels : 車輪

lane : 細道、小道 come down : やってくる

※as 主語(S)+動詞(V)→S が V する時

ここでの as は接続詞で、後ろに主語+動詞の構造が来ます。as には多くの訳し方がありますが、今回は「~する時」という訳で。誰 (S) がどうする (V) のかしっかりつかんで。

※hear ~ doing→~が do しているのを聞く (太字部分)

「~」にあたる部分をしっかりつかんでください。

そのためには、and がつなぐ部分も正確につかむ (斜体字部分)

⑤

be horrified to do : do してぞっとする hearse:霊柩車 driven : drive (~を運転する) 過去分詞形

coachman : 御者 white : 青白い as~ : ~のように death : 死神

※この see は「～を知る」と訳すとうまくいきます。see には、「見る」以外にもいくつか訳があります。訳し分けられると便利です。例) わかる、理解する、知る

※that 節 (太字部分) の中には、主語(S)+動詞(V)の構造が必ずあることを確認
何 (誰) がどう (何を) するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

今回 that 節の中が長いです。しっかり見ていきましょう

まず、not A but B (「A ではなく B」) の構造があります。A も B も名詞 (のかたまり) です。A と B にあたる部分をしっかりとつかむこと。A は carriage ですね。では、B は? ここが長いので
しっかり。

長いということは、名詞にいろいろ修飾語がついているということです。but の後ろを見てみましょう。

a big black hearse driven by a coachman, whose face was white as death

まず、単語の意味を参考に前から訳していきましょう。「大きな黒い…」

立ち止まったところがポイントです。たぶん、「大きな黒い霊柩車」で止まったと思いますよ。

では、その後ろの部分は? そこから、さらに修飾語部分が続いているということです。つまり、
driven by a coachman は直前にある名詞 hearse (霊柩車) を修飾しています。

他動詞の過去分詞は「～られた」と受け身で訳します。つまり、どんな霊柩車でしょうか?

そのあと、また、,whose…、「コンマ+関係代名詞」が出てきましたね! 理屈は①と同じです。
違うのは、①では who だったのが、ここでは whose になっているという点です。ちょっと自分で考えてみてください。who は主格関係代名詞、whose は所有格関係代名詞でした。ちがいは、
主格か、所有格か、ということだけです。確認しておく、「主格」というのは、「主語になる形」ということ、「所有格」というのは、「所有格になる形」ということ。わかりにくければ、単純に訳で理解しましょう。

主格→「○○は」と訳す

所有格→「○○の」と訳す

はい。では、今回の whose はどの名詞の代わりをしている関係代名詞ですか。探し方はもう知っていますね。忘れたのなら①を読み返して。

答えはもちろん、関係代名詞の直前にある名詞です。つまり、coachman です。ではそれを、上の「○○の」の○○に入れて訳せば、うまくいきますよ。訳し方がまだわからない人は、もう一度①を読んでください。「コンマ+関係代名詞」は2つの文章をつないでいることを忘れずに。

<1> it was not a carriage, but a big black hearse driven by a coachman
<2>, whose face was white as death

⑥

sleeve : 袖 coat : コート appear : 現れる skeleton : 骸骨

※from がかかる範囲を正確につかむ

※there appeared…→ ◆There is a cat in the room.という文はほとんどの人が訳せると思います。

「部屋の中に猫がいる」

ですね。

there appeared は、◆の文の is が appeared に変わっただけだと理解しましょう。ですから、「いる」を「現れた」という訳に変えるだけでいいんですよ。ポイントは、この there is~という文章では、何が主語なのかということです。訳から見ても明らかに主語は「猫=cat」ですね。同じように考えると、「何」が「現れた」のかもわかりますね。どこに現れたのか(◆の文では in the

room にあたる部分)、その場所の部分がここでは、文頭に書かれています。強調したい時などにこういうふうに順番を変えることがあります。

⑦

be full of~ : ~でいっぱいである

⑧

directly : ちょうど、正に beneath~ : ~の下に

⑨

look up : 見上げる shout : 叫ぶ room : 余地、スペース

⑩

in terror : ぞっとして drew : draw (～を引く) の過去形 curtain : カーテン
ran : run (走る) の過去形 cover : ～を覆う with~ : ～で bedclothes : 布

※and がつなぐ部分も正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。ここでは、3つの部分をつないでいますよ。A,B and C の形。

⑪

thought : think の過去形 probably : たぶん just a bad dream : ただの悪い夢 so : だから

※and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分)

※thought (that)…→ …だと思った

think の後ろには正式には that 節が来ます。「…と思った」の「思った」内容を that 節で表すわけです。ですから、ここでも thought の後ろに that 節があるのですが、この that を省略することがほとんどで、ここでも書かれていません。でも、that 節の仕組みはそのままですから、ちゃんと主語(S)+動詞(V)の構造を探してください。(太字部分)

では、thought の後ろの、ジェニファーが「思った」内容の部分を見ていきましょう。

it had <probably> been just a bad dream

<probably>は副詞で、文中に挿入されているだけです。日本語訳のどこか適当なところに「たぶん」と入れたらいいですよ。では、それ以外の部分を。

had been は過去完了形ですね。過去完了という時制は、「had+過去分詞形」で表しましたね。been は be 動詞(is,are など)の過去分詞形です。訳し方としては、「～だった」と訳すなど、過去形の訳とあまり変わりません。

OASIS4 の Lesson1 で、過去完了形の説明を載せましたが、覚えていますか？もう一度書いておきますね。

過去完了形(had+過去分詞形)は、ある過去の時点 (過去形動詞) よりもそれが前に起こったことを表す時に使う時制です。この場合、ある過去の時点というのは thought (過去形) です。それ

よりも前に had been just a bad dream (過去完了形) だったということです。つまり、「思った」時は「翌朝」でした。でも、it had <probably> been just a bad dream 「それはただの悪い夢だった」のはいつでしたか。そもそも it は何を指していますか？昨夜、ジェニファー何が起こりましたか？この it は、何か特定の一単語を指しているのではなく、その出来事全体を指していますね。ですから、「それはただの悪い夢だった」のは、昨夜のことです。

「翌朝」と「昨夜」、どちらが先か、もうわかりますね。

⑫

department store : デパート forgot : forget (～を忘れる) の過去形 horror : おそろしいこと
the night before : その前の夜

⑭

paid : pay (～を払う) bill : 勘定 (書)、請求 (書) elevator : エレベーター
go down : 降りる the ground floor : 1 階 it is time for ~ to do : ~が do する時間だ

※when の後ろには「主語(S)+動詞(V)」の構造があります。

※and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

※to が全部で4つも出てきていますが、仲間分けできますか？

to が出てきたら、可能性は以下の2つです。

<1> 前置詞の to (～へ、～にと訳す。to の後ろは名詞)

<2> to 不定詞 (to do の形。to の後ろに動詞の原形がある)

また、<2>の場合、用法が3つありましたね。名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法です。詳しくは自分で調べて。ちなみに、最初の to go は形容詞的用法です。

では、3つ目の to go (down)は？

これは、目的を表す副詞的用法ですね。「do するために」と訳します。

⑮

be crowded : 混んでいる squeeze in : 押し込むように入る somehow : なんとかして

⑩

just before… : …する直前 step in~ : ~に乗り込む operator : 係員 turn one's face : 顔を向ける

※just before 主語(S)+動詞(V)→「誰が(S)」「どうした(V)」のか、しっかりつかむ

③にも同じ構造の文があったので、余裕があれば振り返ってください。

※and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

⑪

to one's horror : ~がぞっとしたことには saw : see の過去形

coachman : 御者 hearse : 霊柩車

※see that 節→ここの see も、「見る」では意味が通らないので、他の訳を。⑤参照

※that 節 (太字部分) の中には、主語(S)+動詞(V)の構造が必ずあることを確認

何 (誰) がどう (何を) するかをしっかりと訳す → 最後に「~こと」をつける

⑫

pull ~ back : ~を引き戻す walk down ~ : ~を降りる stairs : 階段

※and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分) 特に太字部分に注目して。

⑬

go down : 降りる suddenly : 突然 the most~ : もっとも~な terrible : 恐ろしい crash : 衝撃音

cable : ケーブル snap : プツンと切れる plunge to ~ : ~に突っ込む、急に下がる bottom : 底

※started(過去形)、heard(過去形)、had snapped(過去完了形)、had plunged(過去完了形)の動詞で表される4つの出来事の時間関係を確認してみてください。⑪で説明したことを参考に。

※,killing…→コンマ+doing(現在分詞)

これは分詞構文です。分詞構文についてはまた詳しく説明しますので、今気になる人はジーニアス総合英語で調べてみてください。とりあえず、文をつないでいく感じで、「そして、…した」と訳していきます。ちょっと「コンマ+関係代名詞」と似ていますよね。まあ、文をつないでいく方法はいろいろありますからね。「誰が」「どうした」というのをしっかりつかむべき点

も同じです。ここでは

<1> The elevator had plunged to the bottom

<2> , killing everyone in it

の2つがあって、<2>は and killed everyone in it

と書き換えられます。つまり、

The elevator had plunged to the bottom and killed everyone in it.

ということです。これで訳せますよね？誰（何）が kill（殺した）のかも、もうわかりますね。

※everyone in it→in it が everyone を後ろから修飾しています。「その中（の）（にいた）みんな」
it が何かはわかりますね。

⑳

if ever…：もし…だとしても anyone：誰か accept：～を受け入れる invitation：誘い、招待